

結 果 の 概 要

1 結婚・出生の状況

この11年間の結婚・出生の状況をみると、男女とも「結婚した」者の割合は平成14年成年者の方が高く、「結婚した」者のうち「出生あり」の割合は平成24年成年者の方が高い

第1回調査時に独身であった者のうち、「第1回から第12回間に結婚」した者の割合は、平成24年成年者では男38.2%、女55.4%、平成14年成年者では男48.1%、女59.6%と、男女とも平成14年成年者の方が高くなっている。また、「第1回から第12回間に結婚」した者のうち、「出生あり」の割合は、平成24年成年者では男68.1%、女74.0%、平成14年成年者では男62.8%、女63.6%と、男女とも平成24年成年者の方が高くなっている。（表1）

表1 第1回調査時に独身であった者の性、年齢階級別にみた
この11年間の結婚・出生の状況【平成24年成年者・平成14年成年者】

【平成24年成年者】						(単位：%)
性 年齢階級	第1回調査時に 独身	第1回から 第12回間に 結 婚	出生あり	出生なし	結婚して いない	
男	100.0	38.2 (100.0)	26.0 (68.1)	12.2 (31.9)	61.8	
31～35歳	100.0	34.9 (100.0)	23.0 (65.9)	11.9 (34.1)	65.1	
36～40歳	100.0	40.9 (100.0)	28.5 (69.6)	12.4 (30.4)	59.1	
女	100.0	55.4 (100.0)	41.0 (74.0)	14.4 (26.0)	44.6	
31～35歳	100.0	54.9 (100.0)	39.6 (72.1)	15.3 (27.9)	45.1	
36～40歳	100.0	55.8 (100.0)	42.3 (75.9)	13.5 (24.1)	44.2	

【平成14年成年者】						(単位：%)
性 年齢階級	第1回調査時に 独身	第1回から 第12回間に 結 婚	出生あり	出生なし	結婚して いない	
男	100.0	48.1 (100.0)	30.2 (62.8)	17.9 (37.2)	51.9	
31～35歳	100.0	47.4 (100.0)	30.4 (64.1)	17.0 (35.9)	52.6	
36～40歳	100.0	48.7 (100.0)	29.9 (61.4)	18.8 (38.6)	51.3	
女	100.0	59.6 (100.0)	37.9 (63.6)	21.7 (36.4)	40.4	
31～35歳	100.0	61.9 (100.0)	39.0 (63.0)	22.9 (37.0)	38.1	
36～40歳	100.0	56.7 (100.0)	36.5 (64.3)	20.2 (35.7)	43.3	

注：1) 集計対象は、9頁「参考」を参照。

2) 「第1回から第12回間に結婚」には、この11年間に、結婚した後離婚した者を含む。

3) 「年齢階級」は、第12回調査時の年齢である。

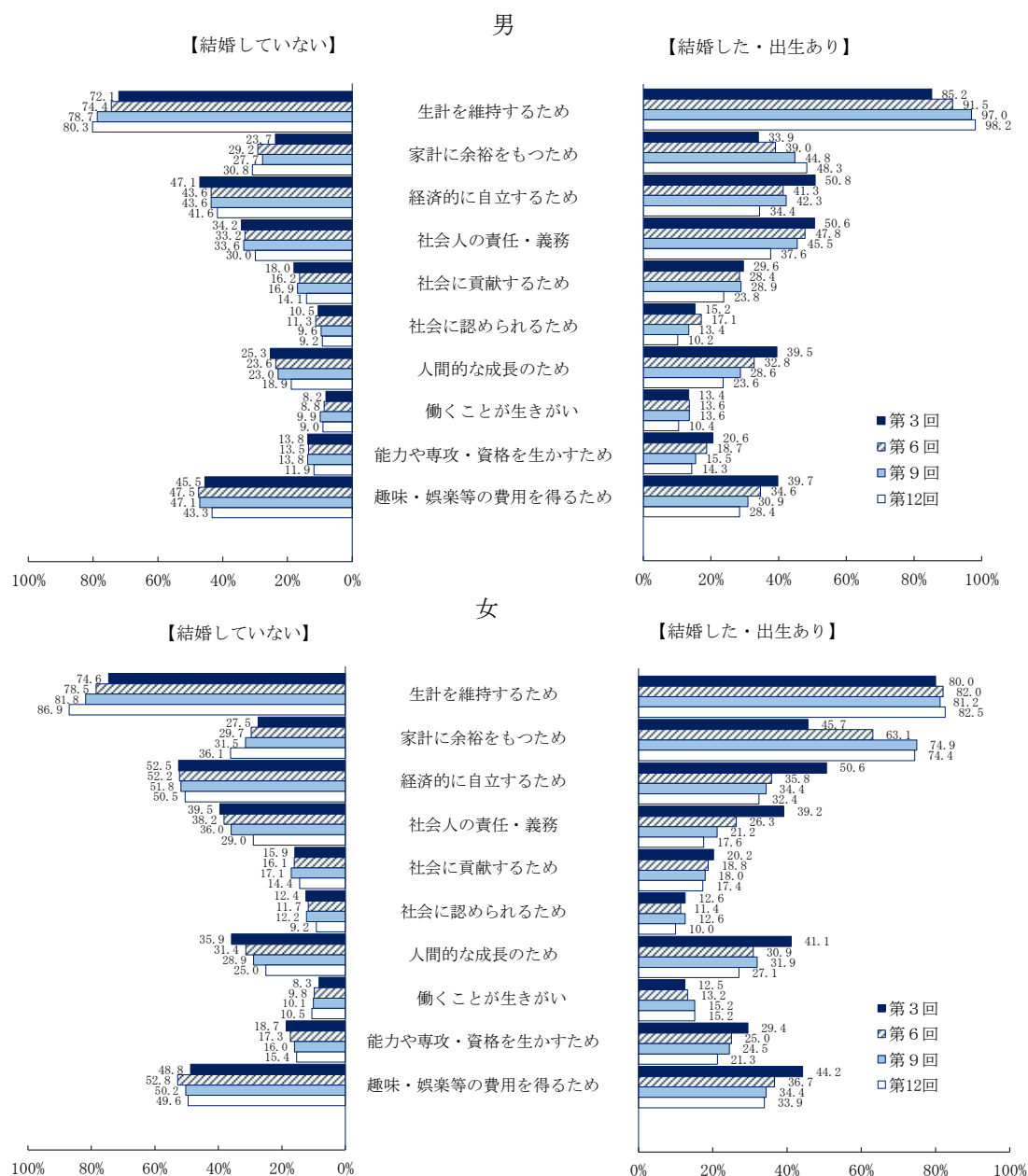
2 就業の状況

(1) 職業観

女では「結婚していない」者に比べ「結婚した・出生あり」の者は、「家計に余裕をもつため」が高い

第1回調査時に独身であった者のこの11年間の結婚・出生の状況別に、第3回から第12回までの職業観をみると、男では「結婚していない」者に比べ「結婚した・出生あり」の者は、「生計を維持するため」「家計に余裕をもつため」「社会人の責任・義務」「社会に貢献するため」が比較的高く、「趣味・娯楽等の費用を得るため」は低くなっている。また、女では「結婚していない」者に比べ「結婚した・出生あり」の者は、「家計に余裕をもつため」が顕著に高く、「趣味・娯楽等の費用を得るため」が低くなっている。（図1）

図1 第1回調査時に独身であった者のこの11年間の結婚・出生の状況別にみた第3回、第6回、第9回及び第12回の職業観（複数回答）



注：1)集計対象は、9頁「参考」を参照。

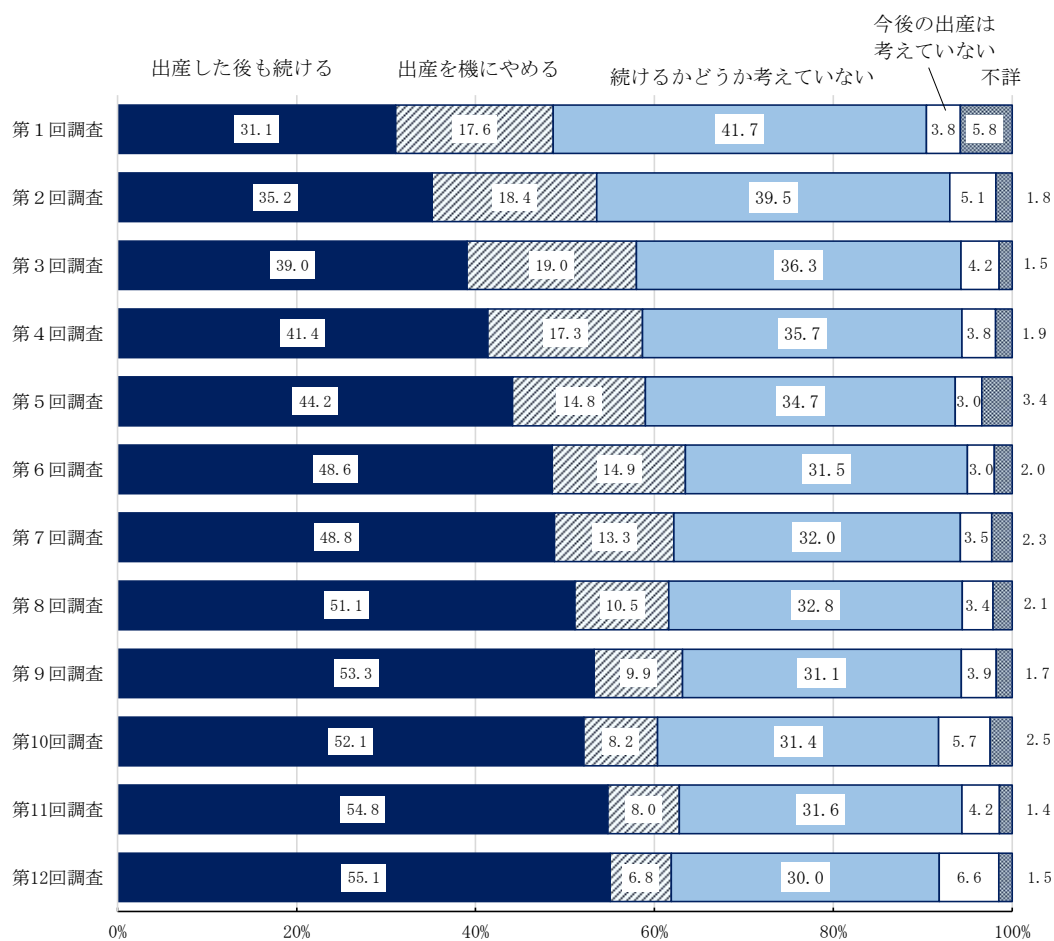
2)「結婚した」には、調査と調査の間に結婚し、かつ離婚した者を、「出生あり」には、第1回から第2回の間の出生を除く。

（２）女性の出産後の就業継続意欲

女性の出産後の就業継続意欲の「出産した後も続ける」は上昇し、「出産を機にやめる」は低下

各回調査で追加希望こども数１人以上の女性（各回調査で仕事あり）について、出産後の就業継続意欲の推移をみると、第１回調査と比べ第１２回調査は、「出産した後も続ける」は 24.0 ポイント上昇し、「出産を機にやめる」は 10.8 ポイント低下している（図２）。

図２ 各回調査で追加希望こども数１人以上の女性（各回調査で仕事あり）の
出産後の就業継続意欲の推移



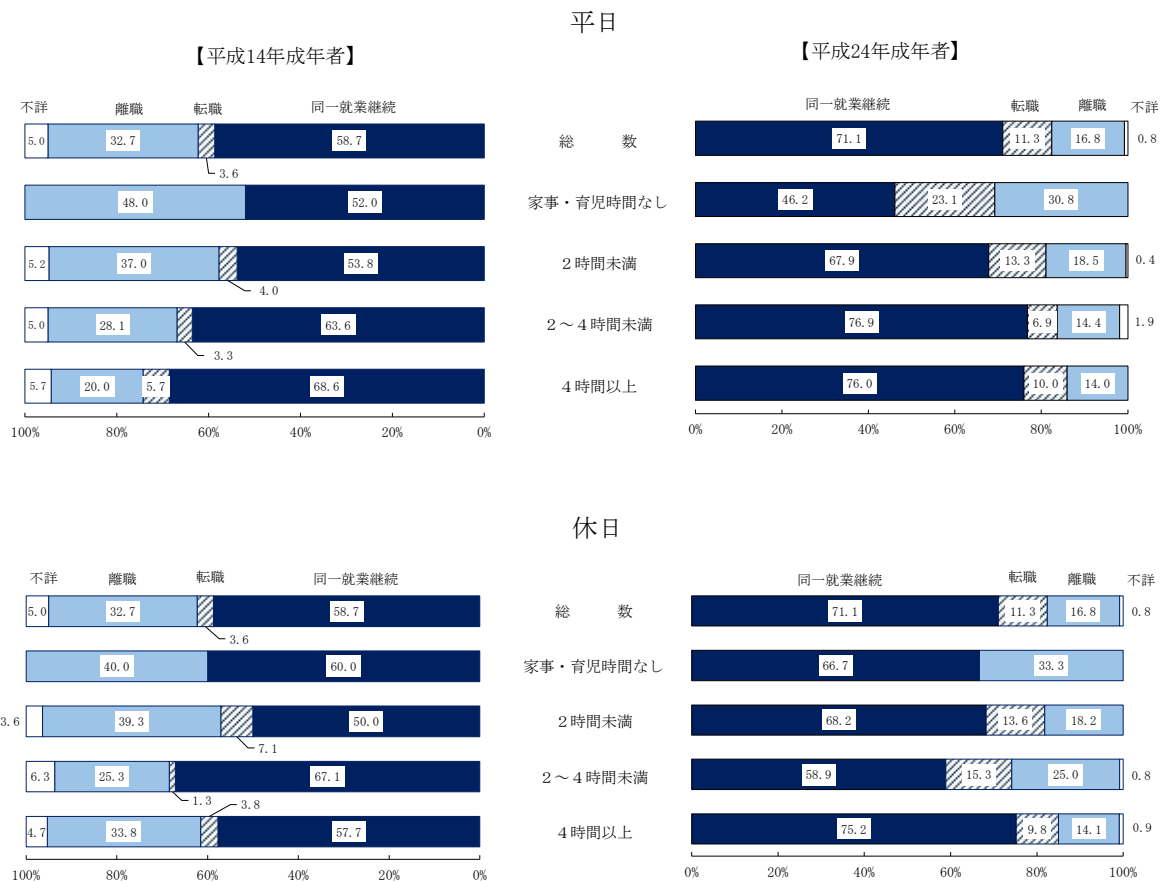
注：集計対象は、９頁「参考」を参照。

（３）夫の平日・休日の家事・育児時間と出産後の妻の就業状況

夫の平日の家事・育児時間が長いほど、出産後の妻の「同一就業継続」の割合が高い傾向

この 11 年間に子どもが生まれた同居夫婦（出産前に妻に仕事あり）について、出産後の夫の家事・育児時間別にみた出産後の妻の就業状況をみると、平成 24 年成年者及び平成 14 年成年者ともに、夫の平日の家事・育児時間が長いほど、出産後の妻の「同一就業継続」の割合が高くなる傾向がある（図 3）。

図 3 この 11 年間に子どもが生まれた同居夫婦（出産前に妻に仕事あり）の
 出産後の夫の家事・育児時間（平日・休日）別にみた出産後の妻の就業状況
 【平成 14 年成年者・平成 24 年成年者】



注： 1) 集計対象は、9 頁「参考」を参照。
 2) 11 年間で 2 人以上出生ありの場合は、末子について計上している。
 3) 「総数」には、「家事・育児時間」の不詳を含む。

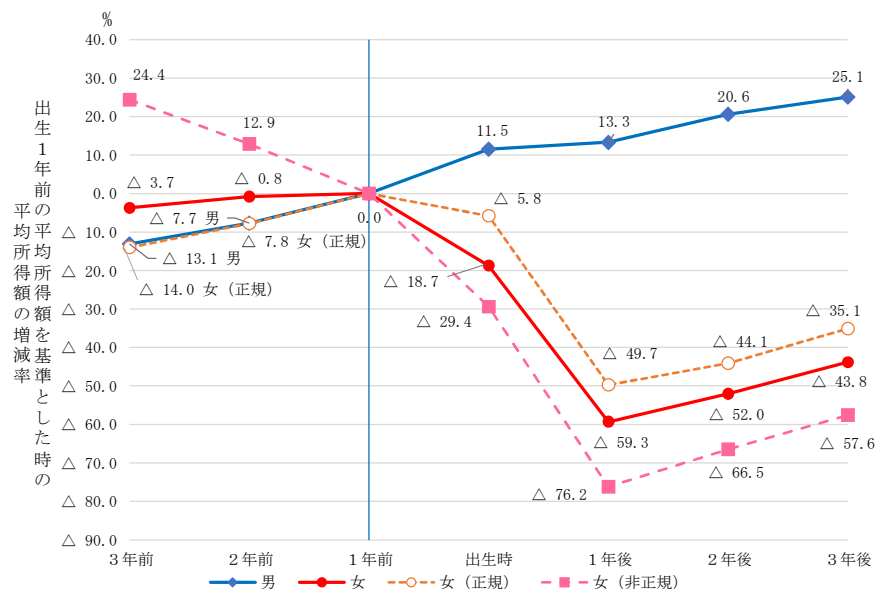
(4) 第1子出生前後の所得

第1子の出生前後の平均所得額の変動をみると、女では出生後の平均所得額の低下幅が平成14年成年者と比べ、平成24年成年者の方が小さい

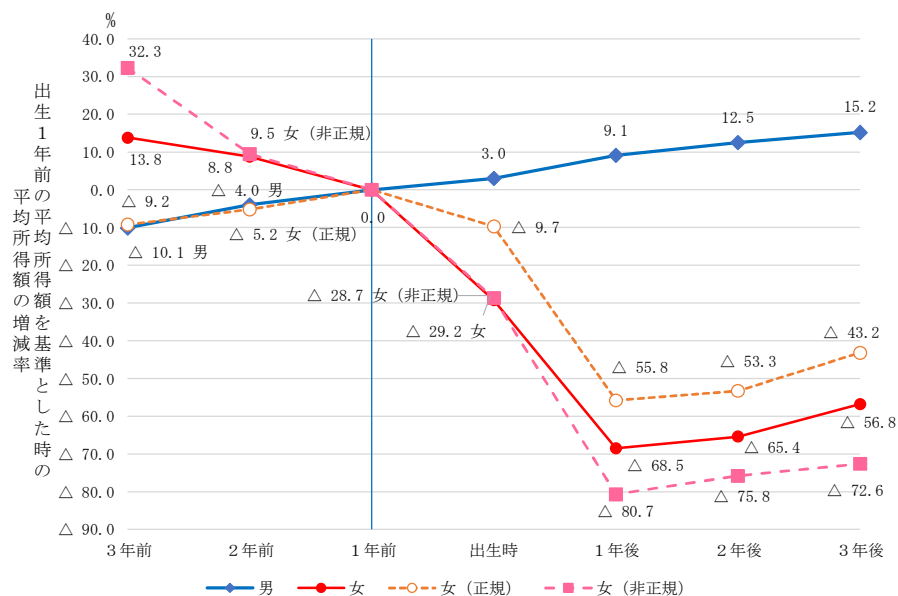
第3回調査から第9回調査の間で第1子が生まれた者について、平成24年成年者及び平成14年成年者それぞれにおいて、出生1年前の平均所得額を基準とした時の、出生前後の平均所得額の増減率の変動をみると、女は、平成24年成年者及び平成14年成年者ともに出生1年後に大きく低下し、その後上昇する傾向がみられる。また、平成24年成年者と平成14年成年者の出生後の平均所得額の低下幅を比べると、女では平成24年成年者の方が小さくなっている。(図4、表2)

図4 第3回調査から第9回調査の間で第1子が生まれた者の出生前後の平均所得額の変動
【平成24年成年者・平成14年成年者】

【平成24年成年者】



【平成14年成年者】



注：1)集計対象は、9頁「参考」を参照。

2)所得額は、前年1年間の所得の状況である。

3)正規・非正規は、第1子出生1年前の状況である。

表2 第3回調査から第9回調査の間で第1子が生まれた者の出生前後の平均所得額の変動
【平成24年成年者・平成14年成年者】

【平成24年成年者】

(単位：%)

出生1年前の平均所得額を 基準とした時の平均所得額の 増減率	3年前	2年前	1年前	出生時	1年後	2年後	3年後
男	△ 13.1	△ 7.7	0.0	11.5	13.3	20.6	25.1
女	△ 3.7	△ 0.8	0.0	△ 18.7	△ 59.3	△ 52.0	△ 43.8
女（正規）	△ 14.0	△ 7.8	0.0	△ 5.8	△ 49.7	△ 44.1	△ 35.1
女（非正規）	24.4	12.9	0.0	△ 29.4	△ 76.2	△ 66.5	△ 57.6

【平成14年成年者】

(単位：%)

出生1年前の平均所得額を 基準とした時の平均所得額の 増減率	3年前	2年前	1年前	出生時	1年後	2年後	3年後
男	△ 10.1	△ 4.0	0.0	3.0	9.1	12.5	15.2
女	13.8	8.8	0.0	△ 29.2	△ 68.5	△ 65.4	△ 56.8
女（正規）	△ 9.2	△ 5.2	0.0	△ 9.7	△ 55.8	△ 53.3	△ 43.2
女（非正規）	32.3	9.5	0.0	△ 28.7	△ 80.7	△ 75.8	△ 72.6

注：1)集計対象は、9頁「参考」を参照。

2)所得額は、前年1年間の所得の状況である。

3)正規・非正規は、第1子出生1年前の状況である。